



# 普及だより

南予地方局農林水産振興部八幡浜支局

地域農業育成室・産地戦略推進室 〒796-0048 八幡浜市北浜 1-3-37

大洲農業指導班 〒795-8504 大洲市田口甲 425-1

西予農業指導班 〒797-8501 西予市宇和町卯之町 3-434-1

ホームページアドレス <https://www.pref.ehime.jp/nan53106/index.html>

令和5年1月発行

TEL0894-23-0163 FAX0894-23-1853

TEL0893-24-4125 FAX0893-24-5284

TEL0894-62-0407 FAX0894-62-5543

## “集落の農地は集落で守る” 柑橘産地における集落営農の取組

### 1. 集落ぐるみでの農事組合法人設立

管内は全国有数の柑橘産地ですが、傾斜地が多いうえに高齢化が進んでおり、今後、産地をどう維持し担い手を確保していくかが大きなテーマとなっています。

このような中、伊方町中浦地域では令和2年9月、“集落の農地は集落で守る”を合言葉に8人の農家が、柑橘産地では県内初となる集落ぐるみによる農事組合法人「笑柑園ナカウラ」（しょうかんえんナカウラ）を設立。それに続いて、西予市蔵貫地区でも令和3年10月、農事組合法人「楽蔵」（らくぞう）が設立されました。



笑柑園ナカウラの構成員

### 2. 笑柑園ナカウラの取組概要

笑柑園ナカウラでは、集落内の農家から耕作を依頼された農地を借り受け、現在70aの樹園地（温州みかん、伊予柑、清見等）を管理しています。作業は年間を通じ日を決めて共同作業を行っています。

樹園地の一部は、将来、法人で雇用した就農者が独立して営農ができるよう、魅力ある樹園地づくりを目指しているところです。令和3年度からは、県・町の事業を活用し、マルドリ施設による紅プリンセス園の整備（5a）や荒廃園の再生と段畑の緩傾斜化（30a）を行っています。

また、HPによる紹介や県内外で行われる就農相談会に参加して人材の確保に努めています。



マルドリ施設による紅プリンセス園

### 3. 集落営農の課題と今後の展望

柑橘産地での集落営農の取組は始まったばかりです。法人としての収益性の向上はもとより、省力化を目指した基盤整備や新規就農者の確保など様々な課題もありますが、「今、取り組まないと・・・」という法人の思いは熱く、他の集落からも関心が寄せられています。

地域農業育成室では、令和3年度から地方局予算「西宇和地域柑橘集落営農組織支援事業」において、関係機関と連携して法人の経営力強化を支援しています。将来を見据えた産地・経営継承のモデルとして捉え、こうした取組を志向する集落の掘り起こしや、活動紹介等を通して他集落への波及に取り組んでいます。

「将来の地域農業を集落で考えてみたい」という方は、是非、当室までご連絡ください。



専門家による経営力強化に向けた研修

## 南予用水を利用したマルドリ栽培開始<八幡浜支局地域農業育成室>

マルドリ栽培は高品質安定生産を行う技術として、以前から注目されていましたが、水源等が必要なため、一部での導入にとどまっていた。

しかし、今年度より真穴地区において、農地耕作改善事業（国）を活用して南予用水を利用したマルドリ施設が大規模に導入され、運用が開始されました。このマルドリ施設は、現在 10.8ha で、整備事業により最終的には 30ha を超える規模になる計画です。

地域農業育成室では、JA と協力して作成しているマルドリ栽培のマニュアルを用い、栽培指導を行っています。本年度運用を開始した園地では、マルドリの効果を発揮させるため、積極的にかん水、液肥施用を行い、ドリップ直下に細根を集めるようにしています。基本的な管理が適正に行われ、樹体がマルドリ栽培に合った状態になると、収量が増加するとともに、連年安定した生産ができるようになります。

南予用水を利用したマルドリ栽培では、取水量等に制限があるため、運用結果をもとに、より効果的に栽培管理が行えるよう、JA 等と協力し栽培マニュアルの見直しを行います。



マルドリ栽培ユニットの説明

## 西洋野菜（ラディッキオ）の産地化をめざして<大洲農業指導班>

ラディッキオとは、イタリア原産の西洋野菜の一種です。鮮やかな赤い葉に白い筋の入ったものが一般的で、ほのかな苦みとサクサクとした食感が特徴です。苦みと彩りを活かすため、生で肉料理などと合わせられるほか、油との相性も良い野菜で、日本国内でもその人気が高まっています。

大洲市の若手農家では、主力品目であるスイカと白菜に加え、新たな品目に挑戦しようと考えていたところ、国内で出回っているものの大半が輸入により供給されている人気の高い西洋野菜に着目し、ラディッキオに挑戦することとしました。

令和4年の春作で約 25a 試験栽培を行い、一定の成果が得られたことから、同年秋作から本格的に取り組んでいます。



ラディッキオ



秋作の定植

現在、青年農業者を中心に、4人で約1haのラディッキオを栽培しています。当初から「西洋野菜勉強会」を立ち上げ、大洲市やJA等と連携しながら、今後の産地化を目指しています。

大洲農業指導班では、今後の新たな品目の産地化を支援するため、水管理や防除等の栽培指導をはじめ、大洲市内や大都市圏の飲食店等へのPRや販売など、関係機関と連携し、出口を見据えた産地づくり戦略で取組を後押ししていきます。

## 耕畜連携・資源循環型農業の推進＜西予農業指導班＞

肥料や飼料をはじめとする生産資材価格の高騰を受け、西予市内の耕畜連携への取組を強化することを目的に、JA ひがしうわ耕畜連携連絡協議会が令和4年9月14日に発足しました。

JA、耕種・畜産農家、コントラクター組合、市、西予農業指導班等で組織する協議会では、畜産農家が次年度に必要とする飼料用稲の確保に向け、生産体制の確立と増産への取組を進めていきます。

また、資源循環型農業の構築に向け、堆肥舎やJA堆肥センターで、環境保全に配慮し製造された牛糞堆肥等について、耕種農家での有効活用を進めていきます。



新たに発足した耕畜連携連絡協議会

## 国の肥料高騰対策について＜地域農業育成室・産地戦略推進室からのお知らせ＞

肥料価格の高騰による農業経営への影響を緩和するため、化学肥料の2割低減に取り組む農業者を対象に肥料価格高騰対策事業を実施しています。本事業では、化学肥料の使用量低減に向けた取組として、堆肥の利用等の2つ以上のメニューに取り組むことで、令和4年6月から令和5年5月までに購入する肥料を対象に支援金を交付します。

また、土壌診断に基づく施肥の推進や新たな施肥量低減技術の導入への取組についても支援します。

農業者のみなさまにおかれては、それぞれの経営の中で、さらに取組が可能な対策を進め、国際的な原料価格の上昇に負けない環境に優しい持続的な農業への転換を進めていくことが重要です。

## フィンガーライムの産地化に向けて＜産地戦略推進室＞

フィンガーライムは、果肉の鮮やかな色とプチプチとした食感、山椒の様な香りを楽しむ、オーストラリア原産の果実です。高級飲食店で利用され、需要はあるものの国内の産地が少ないことから、極めて希少性が高い品目です。

産地戦略推進室では、八幡浜で先駆的に栽培している生産者と連携し、フィンガーライム安定生産の模索や新たな栽培者の掘り起こしを行ってきました。令和2年に生産者協議会を設立し、「次世代につなぐ果樹産地づくり推進事業」を活用して施設整備を進めた結果、現在、生産者10戸、栽培面積46aまで増加しています。産地化検討会などを通じて、会員同士で栽培技術の確認を行っており、ほぼすべての会員のハウスで収穫が開始され、農家所得の向上が期待されています。

また、流通販売面では、市場動向の把握と販路開拓を進めるほか、加工品の開発支援を行っています。果肉を詰めた瓶詰と、果皮を活用したパウダーを試作したところ、いずれも加熱等の処理によって香りや食感が損なわれないことを明らかにしました。今後は、生産者によって瓶詰の生産・販売が開始される予定です。



試作した瓶詰



フィンガーライム



現地研修を行う協議会員

## (株)ニューズが農林水産大臣賞を受賞<全国優良経営体表彰・働き方改革部門>

伊方町河内の(株)ニューズが、令和4年度全国優良経営体表彰の「働き方改革部門」において最高位の農林水産大臣賞を受賞されました。

(株)ニューズは、多品種栽培による通年出荷のほか、6次産業化や台湾への輸出等にも取り組むなど、先進的な経営を展開されています。

「本気のみかんで幸せを届ける」ことを経営理念に掲げ、定期的



(株)ニューズ前で

な個人面談や評価制度を導入し、各スタッフの夢・目標を実現するためサポート体制を充実させています。

また、スタッフのライフスタイルが変化しても仕事を継続できるよう、配置転換や勤務形態の変更を柔軟に行うほか、個々の作業の見直しを行い、業務改善や効率化を推進されています。



野中農林水産副大臣と社長

## 大久保玲香さんが最優秀賞を受賞<毎日農業記録賞>

伊方町大江の大久保玲香さんが第50回毎日農業記録賞において最優秀賞を受賞され、さらに、その中でもトップとされる中央審査委員長賞（農林水産大臣賞）と新規就農大賞を県下で初めてW受賞されました。



二人三脚のご夫妻

今回受賞した作品は、三重県からの移住就農に至るまでの驚くべき行動力と明るさをもって頑張る姿が高く評価されました。

受賞作品は、毎日新聞社のHPに掲載される予定です。



毎日農業記録賞表彰式

(株)ニューズ社長の土居裕子さんと大久保玲香さんは、八西地区の一次産業女子で構成する「∞農 Harvest」（はちのうはーべすと）にも所属し、女性農業者の仲間づくりや地域農業のPR活動にも尽力されています。

## 南予儲かる農業人材育成事業について <地域農業育成室・産地戦略推進室>

若者が将来に渡って南予地域で安心して暮らせるように、農業の魅力を高めながら新規就農者の定着支援を令和4年度から3か年、重点的に実施しています。

今年度は、儲かる農業推進チームによる新規就農者に対する経営・技術指導、新たな技術・品目の栽培実証や新品种・新技術を取り入れた1千万円モデル（経営指標）の作成、土づくりによる肥料高騰対策等をテーマにした交流セミナーを開催しており、儲かる農業の実現に向けて、年収1千万円以上の農業者の育成を目指しています。



儲かる農業交流セミナー